

人生に自動ドアはない

校 長 武井 正明

夢のような、あっというまの2泊3日が終わりました。

あらためて教師という生き物は、子どもたちの笑顔が何よりのやりがいになるのだと実感した3日間でした。

私が旅行中撮った1245枚の画像は、いっぱい笑顔で埋め尽くされています。これが何より幸せなことであり、修学旅行の意義なのだと思います。

私が嬉しかった最大の収穫は、参加した生徒全員が大きく体調を崩すことなく元気に楽しい時間を共有できたことです。みんなが好き放題にやってみんなが気持ちよく過ごせる集団などひとつありません。お互いが、少しずつ気を配りあったからこそ、できたことだと思うのです。

そして、最も大きな課題は「人の話を聴く」という姿勢です。

今回は引率の先生方の話を聴く場面が多くありました。その際、発信された情報を正確に受け取れていない人が物を紛失したり、不都合が生じたり、手痛い経験をしました。

いよいよあと1か月余りで最高学年となり、学校全体を動かす立場になる人が多くなり、その場面が急増します。その時に、人に話を聴いてもらって自分の指示や意図を正確に伝えることが、いかに難しいことかを身に染みて知ることになります。

良きリーダーとは「人の話を聴ける人」です。

それはやがて受験で、その力の有無が直接そのまま、自分に跳ね返ってきます。

私がとても勉強になったのは、最終日の竹村能舞台見学。

事前に吉中のHPを見て、お客様の情報を頭に叩き込み、生徒や職員を名前呼び掛け、その竹村純子先生の謙虚な姿勢に感動しました。

講座は能のルーツから、親しみやすく面白くリズムよく、時に生徒を舞台に上げ義経の亡霊が登場する場面の実演を見せてくださった。「眼で見えるその奥の映像を想像して見る」ことに能の奥深さがあると教えていただきました。

竹村先生は仰っていました。

「人生に自動ドアはない」自分が一步踏み出して、人生を切り拓いて行かなければ夢は実現しません。他に頼って自分で考えない人間は、所詮成り行き任せの人生となります。

講座後、早速興味を持った女子が、きっと勇気を出して竹村先生に質問していました。

これがきっかけで、彼女が能の鑑賞が趣味になる可能性も十分あります。それは、あなたの人生を、より豊かなものに変えていく瞬間であり、自分でドアを開けた瞬間でした。

吉中2年生が、真のリーダーの集団となり、さらにパワーアップした吉中を創ってくれることを、今から、心から期待しています。